

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市男女共同参画審議会 (令和 2 年度第 1 回)			
事務局 (担当課)	人権・男女共同参画課 電話 042-769-8205 (直通)			
開催日時	令和 3 年 3 月 3 0 日 (火) ~ 3 月 3 1 日 (水)			
開催方法	書面開催			
出席者	委員	1 5 人 (別紙のとおり)		
	その他	/		
	事務局	/		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数
公開不可・一部不可の場合は、その理由	書面開催のため			
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 会長及び副会長の選出 2 議題 令和 2 年度相模原市男女共同参画年次報告書 (案) について 3 報告事項 審議会等における女性委員の参画状況 (令和 2 年 3 月 3 1 日現在) について 			

審 議 経 過

1 会長及び副会長の選出 (○は委員の発言、 は事務局の発言)

(1) 会長及び副会長の選出方法について

他薦多数の委員を、会長又は副会長として選出することとした。

(2) 会長について

前会長である永井暁子氏(日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 准教授)について多数の推薦を得たため、同氏を会長とする。

(3) 副会長について

前副会長である矢野由佳子氏(和泉短期大学児童福祉学科 准教授)について多数の推薦を得たため、同氏を副会長とする。

2 議題

令和元年度相模原市男女共同参画年次報告書(案)について

- 多方面にわたって男女共同参画を推進するための問題点や今後の計画等が報告されている。世代間での差はあるが、男女共同参画に対する理解度も上がり、女性が働く環境は改善しているように思う。
- 2020年は新型コロナウイルスが女性の働く環境や家庭生活にどのように影響しているか案じている。今後の調査項目には、新型コロナウイルスによる影響なども含めていただきたい。
- 10ページの年齢別、男女別未婚率の推移について、「女性30-34歳は0.1ポイント低下」とあり、低下とは言いにくい。また、凡例がわかりにくい。
凡例の記号アイコンのサイズを修正させていただく。
- 12ページの男女平等のための重要なことについて、男女差の大きい項目として家庭責任と女性の経済力を指摘すると良い。
「女性は「男性も家事や育児、介護など家庭責任を担うこと」が64.5%で最も高いのに対し、男性は47.8%にとどまっており、男女間の差が大きくなっています。同様に「女性が経済力を持つこと」も女性40.3%に対して男性22.9%と男女間で大きな差がみられます。」と追加記載させていただく。
- 13ページの審議会等における女性委員の割合の推移について、平成28年度以降は、それ以前と比較すると増加の幅は大きくないため、平成28年度をピークに停滞していると記載した方がよい。
「本市の審議会等の委員に占める女性の割合は平成28年度をピークに停

滞し、令和元年度においては、33.3%となっています。」と修正させていただきます。

- 14ページの教職員の管理職（校長・副校長）に占める女性の割合の推移について、小・中学校を平均化して概ね増加傾向と評価すると実態が見えなくなってしまうため、小・中学校を分けて考察するべきである。

「市立小学校の（略）女性の割合は45.8%となっており、高い水準を維持していますが、市立中学校については14.1%となっており、依然として高いとは言えない状況です。」と修正させていただきます。

- 16ページから21ページの図表17、20、21、27について、相模原市の統計も掲載した方がよい。

市町村別の結果が公表されていない統計データとなるため、相模原市のデータを追加することができない状況である。

- 17ページの子育てや介護等でいったん仕事を中断した女性が、再就職・再起業等、再チャレンジできる環境を作るために必要な対策について、家事・育児だけでなく、企業側制度の対策も文中に加えた方がよいのではないか。

「「企業等の理解、フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」が65.0%となっています。」と追加記載させていただきます。

- 28ページのDV相談件数の推移について、令和元年度と平成22年度との比較を記載した方がよい。

「DV相談件数はおおむね増加傾向にあり、令和元年度の件数は1,038件で、9年前（平成22年度）の3倍強となっています。」と追加記載させていただきます。

- 32ページの【評価】について、中学校の女性管理職割合は低く、この数字の高さは小学校の女性管理職割合によるものなので、小学校の女性管理職割合は高いが、中学校では低いままだと記載した方がよい。

「市立小学校の校長・副校長に占める女性の割合は45.8%となっており、高い水準を維持していますが、市立中学校については14.1%となっており、依然として高いとは言えない状況です。」と修正させていただきます。

- 86ページ「相談体制の充実」について、学校における児童・生徒へのわいせつ教諭の問題について、色々な角度からの体制と空き教室の管理体制や指導体制（1対1）を考えて欲しい。

教育委員会へいただいたご意見をお伝えさせていただきます。

3 報告事項

審議会等における女性委員の参画状況(令和2年3月31日現在)について

- 市議会で女性議員の占める割合は2割であるが、議員は政策決定に関わるため、5割を占めることが望まれる。クオータ性を導入して、割合を増加させることが必要と考える。

- 審議会等の女性委員比率が平成28年度までは増加してきたのに対して、平成28年度以降漸減している傾向については、どのような事情が影響しているのかが気になった。また、どのような分野や部門において、特に女性比率が低いのがわかる形で提示されると、抱えている課題がはっきりするのではないかと。
- 前年度と比較した際、女性割合が前年度と同じ審議会等と前年度よりも低下した審議会等の数が多いのは、努力不足と見るべきである。
- 女性委員の比率が30%以下の審議会等は、特に努力をする覚悟と準備が必要である。また、平成28年度をピークに女性委員の割合が低下してきており、40%を目指す覚悟と女性委員を増やす呼びかけ等が一層必要である。
- 目標数値ではなく、履行勧告や条例として堅持させ、又は履行しなければ認めしないなども加えて実行すべきと考える。書き方について再考されたい。
- 地域福祉推進協議会にもう少し女性を増員し、女性の見方を取り入れて欲しい。
- 教職員健康審査会には、少なくとも1名は女性を登用した方が良い。
- 市選挙管理委員会、監査委員及び固定資産評価審査委員会の行政委員会、行政不服審査会、廃棄物処理施設設置等調整委員会等の7つの審議会等について、前年度に引き続き女性登用率が0%である要因について解明した方が良い。
審議会等委員の推薦母体となる団体や、審議事項の専門分野自体に女性の割合が少ない傾向にあることなどが課題と認識している。引き続き、推薦団体に対して女性委員を積極的に推薦するよう依頼していく。

以上

相模原市男女共同参画審議会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属団体等	出欠
1	岩永 良子	特定非営利活動法人 かながわ女のスペースみずら	出席
2	大木 恵	相模原市自治会連合会	出席
3	神谷 静枝	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
4	小林 政美	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら	出席
5	竹内 祥子	相模原市退職校長会	出席
6	徳田 晃一郎	神奈川県弁護士会	出席
7	富田 保宏	神奈川県社会保険労務士会 相模原支部	出席
8	永井 暁子	日本女子大学人間社会学部社会福祉学 科 准教授	出席
9	中西 泰子	相模女子大学人間社会学部社会マネジ メント学科 准教授	出席
10	西岡 直子	相模原市医師会	出席
11	原田 征士	公募委員	出席
12	原田 康子	公募委員	出席
13	松下 龍太	相模原商工会議所	出席
14	松岡 裕	相模原市私立保育園・認定こども園 園長会	出席
15	矢野 由佳子	和泉短期大学児童福祉学科 准教授	出席

敬称略